

美しき孤高のハンター Wild cats of the world

世界の野生猫

価格
本体
680円
+税
新訂版

ライオン、ヒョウ、カラカル、サーバル、マヌルネコ、
オセロット、スナドリネコ、ボブキャット、ユキヒョウなど

過酷な自然界を強くたくましく生きる!!
迫力満点のネコ科動物30種を紹介

進化を続けてきたネコ科動物



ネコ亜科オオヤマネコ属のボブキャット。オオヤマネコのなかで最も小さい種である。(P.104)

イヌと並んで人間に最も身近な動物であるネコの祖先(最初のネコ科動物)は、約四〇〇〇万年前に姿を現し、以後、捕食動物としての進化を続けてきた。

ネコ科動物には、大型のトラ、ライオン、ヒョウ、ジャガー、チーターなどのほか、小型のヤマネコ、オオヤマネコ、ピューマなどがある。生物学的な分類では、ヒョウ亜科とネコ亜科に大きく分かれ、ライオン、トラ、ヒョウ、ジャガー、ウンピョウ、ユキヒョウ、マーブルキャットがヒョウ亜科に属し、そのほかは全てネコ亜科に含まれる。分類の説にもよるが、ネコ科動物の総数は三六種にも及ぶ(亜種と絶滅種は含めず)。

ネコ科動物に共通する特

徴は、出し入れできる鋭いツメ、比較的長いキバ、強い瞬発力、あまり高くない持久力、群れをつくらず単独で行動する、などだろうか。これらにイエネコは全て当てはまるし、トラやヒョウも似ている。ただし、ライオンは群れをつくるし、チーターのツメは出し入れできない。例外はある。

イエネコは、人間とフレンドリーな関係だが、どことなく孤高で、野生を感じさせ、謎を秘めている。

それは、ネコ科動物が優秀な捕食者であり、イエネコであってもかわいだけではない狩猛(どらま)さを内に秘めているからなのだろう。そんな、陸上動物中最強の捕食者であるネコ科動物の面々を紹介していこう。

Contents



※本書は、2013年7月に第1刷を発行した「美しき孤高のハンター 世界の野生猫」の編集内容を変更し、改訂したものです。

COLUMN 01 進化を続けてきたネコ科動物	003	泳ぎが得意なネコ	066
COLUMN 02 ネコの仲間の大きさ比較	004	01 スナドリネコ	068
		02 トラ	072
		03 オセロット	076
		04 ジャガー	080
木登りが上手なネコ	006	COLUMN 06 実は別種、2つの ゴールデンキャット	084
01 ヒョウ	008	COLUMN 07 思わず触りたくなる愛しの肉球	086
02 マーゲイ	012		
03 ウンピョウ	014	オオヤマネコの仲間	088
COLUMN 03 出し入れ自在のネコのツメ	018	01 ヨーロッパオオヤマネコ	090
		02 スペインオオヤマネコ	096
砂漠や草原で暮らすネコ	020	03 カナダオオヤマネコ	100
01 ライオン	022	04 ボブキャット	104
02 カラカル	026	COLUMN 08 ツシヤマネコと イリオモテヤマネコ	108
03 チーター	032		
04 サーバル	036	美しく神聖なネコ	110
COLUMN 04 ライガーとネコ科の混血種	042	01 ユキヒョウ	112
		02 ホワイトライオン	116
イエネコに似たネコ	046	03 ホワイトタイガー	118
01 リビアヤマネコ	048	04 ピューマ	120
02 マヌルネコ	052	COLUMN 09 絶滅したネコ科の大型種	124
03 ベンガルヤマネコ	058		
04 クロアシネコ	060		
COLUMN 05 イエネコの起源	062		

※動物園情報について…2014年7月現在の情報です。亜種・色変りの個体も含まれた表記です。また、飼育されていても展示されていないことがありますので、動物園に行く際は直接動物園にご確認ください。

※生息地地図について…野生動物の生息地は明確ではありません。参考にとどめてください。

※体色・斑紋について…ネコ科動物の体色・斑紋は地域差や個体差が大きく、本書の記載内容と異なる場合があります。

※分類・系統について…分子生物学の進歩・発展により、従来の説とは異なる研究成果が数多く発表されています。本書に記載の分類・系統は説の一つであり、ほかにも説がある場合があることをご承知ください。



イエネコに似たネコ

中央アジアに棲む最も古いネコ科動物

マヌルネコ

Pallas's cat

Data



和名: マヌルネコ(まぬる猫) またはモウコヤマネコ(蒙古山猫)

英名: Pallas's catまたはManul

学名: *Felis manul*または*Otocolobus manul*

分類: ネコ科マヌルネコ属

体躯: 体長50~65cm、

尾長20~30cm

体重: 2.5~5kg



中央アジアなどの極寒の気候に適応する毛皮をもつマヌルネコ。



【上】ずんぐりとした体型でも、木の上を器用に歩く。【左】動物園のマヌルネコ。木の上からこちらを睨みつけて、威嚇している様子。



マヌルネコのごはん

マヌルネコはかわいらしい顔をしているが、もちろんハンターだ。ウサギ(右写真)、ネズミ、リス、小鳥などを待ち伏せや尾行で捕らえることが多い。



マヌルネコは、イエネコの標準的な体格とほぼ同等の大きさのネコ科動物。シベリア南部、アフガニスタンなどの中央アジア、チベットなどの樹木の少ないステップ地帯や岩場を好み、平地から標高三〇〇〇〜四〇〇〇mの高地にも棲んでいる。また亜種は、ネパール、イラン、カザフスタン、トルクメニスタンなどに生息している。

身体的な特徴はちよつとユニークなずんぐりとした体形と、濃密な毛皮。寒冷地に棲むため体毛が密なので、よりいっそう太って見える。この厚い体毛のおかげで、雪の上や凍った地面の上に腹ばいになつても体を冷やさずに済むのだ。

そして、目が高い位置にある

り、耳が低い位置にあるというユニークで愛らしい顔立ち。尾は太く、五〜六本の輪状の縞模様がある。ネコ好きにはたまらないかわいらしさなのだが、国際自然保護連合(IUCN)から準絶滅危惧種に指定されているので、ペットにはできない。ただ、最近まで毛皮を目的とした狩猟の対象になつており、法によって保護している国はロシア、中国、モンゴル、アフガニスタンなどだけだ。

分類上はマヌルネコ一種で、マヌルネコ属を構成するが、イエネコが含まれるネコ属やベンガルヤマネコ属に含まれるとする説もある。

夜行性で、繁殖期以外は単独で行動し、昼間は、岩陰、岩穴、マーモットが掘った穴な



【上】マヌルネコの毛は季節とともに生え変わる。
 【下左】鳴き声を出すマヌルネコ。アゴは小さく、ほかのネコ科動物に比べて歯の数も少ない。
 【下右】おすわりして、こちらをじっと見つめる様子。



Zoo Information

- 埼玉県こども動物自然公園(東松山市)
- 上野動物園(東京都台東区)
- 東山動植物園(名古屋市千種区)
- 王子動物園(神戸市灘区)

ここで会える!!



目を大きく見開いて、真上を見上げるマヌルネコ。獲物でも見つけたようだ。



岩の間からこちらを見つめるかわいらしいマヌルネコの赤ちゃん。(※)

繁殖が難しいマヌルネコ

マヌルネコは免疫力が低く感染症に弱い
 ため、飼育下の繁殖は難しいとされて
 いるが、上野動物園では繁殖に成功
 している。飼育下では4~5月にかけて1
 ~5頭を出産するが、野生の出産・子育
 てについてはよく分かっていない。

Map 分布図

シベリア南部、アフガニスタンなどの中央アジア、チベットなどに分布している。

どに潜んでいる。足が遅いため、狩りの仕方は待ち伏せや尾行が多い。目の位置が高い理由として、身体を岩陰などに潜めたまま目で獲物を探す、あるいは追跡するために有利なためだといわれている。

ほかのネコ科動物と違うのは、瞳孔が収縮しても縦長にならずに、明るい場所でも瞳は丸いままという点。

主に捕食するのはネズミやナキウサギで、トガリネズミやユキウサギ、小鳥なども食べている。ユキウサギは体長四五~六五センチ(体重最大四キロ弱)あるので、マヌルネコの獲物としてはかなりの大物だ。

風貌がベルシヤネコに若干似ていることから、祖先または原種とされたことがあるが、現在では否定されている。



泳ぎが得意な
ネコ

水辺で漁をする気性の激しいネコ

スナドリネコ

Fishing cat



水辺の近くで獲物を探すスナドリネコ。

Data



和名:スナドリネコ(漁り猫)
英名:Fishing cat
学名:Prionailurus viverrinus
分類:ネコ科ネコ亜科
ベンガルヤマネコ属
体躯:体長57~86cm、
尾長25~33cm
体重:5.5~8kg



【上】かわいい顔をしているが、気性が荒く、ヒツジやヤギなどの家畜を襲うこともある。【左】ペロリと舌を出しながら歩き回るスナドリネコ。

スナドリネコのごはん

スナドリネコの主食は魚(下写真)。ほかに、ザリガニやカニなどの甲殻類、貝類、カエルなどを捕食する。まれにイヌやヒツジ、子ウシを獲物にする場合もある。



スナドリネコは、非常に泳ぎが得意で、魚を「捕る」漁(すなご)「る」から和名が付けられた。意外かもしれないが、魚食のネコ科動物は極めて少ない。

インドネシアからインドシナ、中国南部、インド、スリランカに分布しており、熱帯・亜熱帯の mangrove 林、河川、湖沼などの水が豊富な場所に生息している。警戒心が強く、めったに姿を見せないため、未だ多くの謎が残されている。

一見、イエネコのようにも見えるが、イエネコよりもずっと大きく、体つきも比較的丈夫でがっしりしている。体の大きさは地域によって差があり、インドに生息するものは体長八〇センチ、尾長三〇センチほど

であるが、インドネシアでは体長六五センチ、尾長二五センチほどと小さい。
毛は短くて粗く、体色は灰褐色で、アゴから腹部にかけては白っぽい。全身にはやや細長いベンガルヤマネコに似た黒斑紋がある。尾には複数の黒い輪があり、尾の先端は黒色。尾は太くて短く、体長の半分以下の長さで、耳は短くて丸い。また、気性は激しく

特筆すべき身体的な特徴として、水辺に適するように前足の指の間に、よく発達した水かき状の膜がある。また、ツメを収めるための鞘が発達していないため、ツメを収納することができない。この特徴は、陸上を高速で走るためにツメの収納をやめたチーターと同様に、魚を捕るために適



【上】長い草の茂みの中を移動する。スナドリネコは警戒心が強いので、めったに人前に現れない。【左】木陰で寝転ぶスナドリネコ。



Zoo Information

- 東山動植物園 (名古屋市千種区)
- 天王寺動物園 (大阪市天王寺区)

ここで
会える!!



水面を覗き込んでいるようだ。前足の指の間に水かきがあるのが特徴。



動物園では間近で見ることができるスナドリネコ。(※)

ナイトサファリのスナドリネコ

シンガポールには、夜だけ開園する世界初のサファリパーク「ナイトサファリ」がある。徒歩コースのフィッシングキャット・トレイルを歩いていくと、そこには野生に近い姿のスナドリネコを間近で見ることができるのだ。活発に小川の魚を捕らえる狩りの様子は迫力満点。

Map 分布図

インドネシアからインドシナ、中国南部、インド、スリランカなどに分布している。

応じた進化の結果とされている。
 狩りの仕方ほかのネコ科動物とは異なり、岸辺で顔を水中に浸け、熊手のような前足で魚を捕る。また、水中に飛び込んで漁することもあり、水を怖がる、あるいは嫌がることはない。この点もネコ科動物としては珍しい。また、陸上で狩りをすることもあり、げっ歯類、へび、鳥類を捕食する。
 主に魚を食べるスナドリネコの暮らしには、水場が欠かせない。しかし、都市開発や人間の移住、河川や湖沼の水質汚染、魚の乱獲によって、生息域が急速に狭められている。その生息数は、一説には過去二〇年間で半減したとされている。



木の上で休息をとるメスライオン。(P.22)

美しき孤高のハンター 世界の野生猫【新訂版】

2014年9月22日 第1刷発行

発行人 武井誠(株式会社エディング)

発行所 株式会社ファミマ・ドット・コム
〒170-6012
東京都豊島区東池袋3-1-1
サンシャイン60 12F

著作 株式会社エディング 出版編集部

編集 多田あゆみ・梶間伴果・武井誠

デザイン 多田あゆみ

写真 Shutterstock
環境省西表野生生物保護センター

印刷所 株式会社ツーンネット

【この本に関するお問い合わせ先】

【電話の場合】

■本書の内容については

03-5228-3951(株式会社エディング 出版編集部)

■在庫、不良品(落丁、乱丁)については

03-5958-3817(株式会社ファミマ・ドット・コム)

【文書による本書内容のお問い合わせの場合】

株式会社エディング 出版編集部

〒162-0811

東京都新宿区水道町 2-14 柴木ビル 2F『世界の野生猫』係

■株式会社ファミマ・ドット・コム情報は

右記をご覧ください → <http://www.famima.com/>

<http://www.pub-famima.com/>

© famima.com 2014 Printed in Japan

本書の内容、写真などの転載、複製、複写(コピー)、翻訳を禁じます。
本書を購入いただいたお客様ご本人あるいは第三者に依頼して、デジタル化することは、
個人や家庭内の利用でも著作権法により認められておりません。